

「志」は自分のためではなく
周囲の人々をも幸せにする。
そんな志をもつ若者を育てたい



学校運営の舵を取るトップに聞く

LEADERS

File 06 池 康晴

Yasuharu Ike

おうてまえ
高知追手前高校 校長

いけ・やすはる

1956年生まれ。東京理科大学理学部卒業。高知丸の内高校、中村高校を経て、93年高知県教育委員会高校教育課管理主事。96年文部省教育助成局へ1年間派遣。県教委教職員課を経て、2003年高校教育改革課長。05年高知追手前高校校長、08年県教委事務局教育次長。12年より現職。前高知県高等学校長協会会長。

まとめ／堀水潤一 撮影／ワタナベヨシアキ

授業の改善とレオプロジェクト

高大接統のあり方が議論されています。課題発見・解決能力や思考力・判断力・表現力は重要ですが、その前段として基礎的な知識や技能が必要なことは言うまでもありません。特に、全国学力・学習状況調査の結果を見ても、本県の公立中学校における生徒の基礎学力は高いとは言えません。また、企業や大学の方が言う、「最低限の学力があればいい。それよりも」と話すときの最低限とは、私たちが考えるより高いレベルを指していることも感じています。

そうした背景もあり、本校においても基礎学力の習得に力を注ぐ必要があると考え、この十数年、授業レベルの向上に努めてきました。それまで朝や放課後の補習を中心に大学受験対策を行ってききましたが、最小限に抑え、授業第一主義を掲げました。そのうえで思考力・判断力・表現力を育てるため、知識に偏重した授業を少しでもアクティブにするなど、授業のあり方も変化させています。アクティブといっても、グループ学習にこだわるのではなく、内的な活動の中でも思考力を高めるよう工夫しています。

授業改善と連携し、主体的に学習に取り組む態度を育成するため重要な役割を果たしてきたのがレオプロジェクトです。英語イベント大会や小論文コンテストのほか、地元の企業人や著名人を招いての講義、講演会、研修などを、総合的な学習の時間とLHRを中心に、全校的な取り組みとして実施しています。

私が初めて校長として赴任した2005年は、この取り組みが完成年度を迎えた年でした。当時48歳。経験の浅さを不安視する声もありましたが、前任者の撒いた種が芽吹くように、国公立大学の合格者が伸びました。その後の授業改善との両輪で、学年の半数が現役で国立大学に進学するまでになりました。

しかし、今の形が最善とは思いません。「オーバーフロー気味で勉強に集中できない」「受け身の生徒が増えた」といった声もあがっています。大学入試のあり方が変わろうとしている今、一度白紙に戻し、新たなレオプロジェクトをボトムアップで作ろうと計画しているところです。

「チーム追手前」の精神で志をもった若者の育成を

本校のPTA総会には、2日間の開催にしたこともあり、毎年600人ほどの保護者が出席します。生徒数は800人弱ですから相当な人数です。クラス委員も21学級で90人近くにおよびます。これは、とてもうれしいこと。個人では何もできません。生徒の中に、受験勉強はチーム戦という雰囲気定着した今、「チーム追手前」の精神で、保護者、校友、教職員がベクトルを合わせ、生徒の目標達成を応援したいと思っています。

生徒には、日頃から「志」を持って伝えていきます。夢や希望は、自分に向きがちですが、志は、自分だけではなく周りの人々を幸せにします。自分のことだけではなく、社会、地域、家族のために貢献できる人に育ってほしいと思います。

高知追手前高校
(高知・県立)

1878年高知中学校として創立。1948年高知県立高知新制高校発足。翌年高知県立高知追手前高校に改称。全日制普通科、2学期制、男女共学、全21クラス。校訓は「質実剛健」「文武両道」。卒業生でライオン宰相と呼ばれた内閣総理大臣濱口雄幸にちなみ、次代のリーダーの育成を目指し「レオプロジェクト」という教育を実践。